



学友会 会報

第26号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL ▶ <http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail ▶ gakuyu@nakanihon.ac.jp

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学

学友会会長 丹 地 章 夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十九年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

告申し上げます。

さて、前号でも触れました通り、十八年九月、中日本自動車短期大学創立40周年の記念事業として、中日本の姉妹校であるフェラーリ工業専門学校と、ソーラーカーによるイタリアでの記念走行が行われ、また、フェラーリのテストコース走行、工場の見学という貴重な体験もさせていただきました。

また、今年度母校におかれましては、桜谷新学長を迎え、新しい組織体制のもと、よりきめ細やかな指導がなされておりますこと、心より嬉しく思っております。

中日本での経験も豊かな先生であれば、古いものと新しいものが融合した、より質の高い、時代に即した指導がなされること期待しております。

なお今年度も、入学者が定員割れという厳しい現状があります。どうか皆様方のお力添えで、一人でも多くの入学希望者確保ができますよう、よろしくお願いいたします。

体験入学、キャンパス見学会、同窓子女入試制度、学友会推薦制度等を十分活用いただきますよう、希望、問い合わせ等ありましたら、どうぞ遠慮なく事務局へご連絡ください。また、卒業生の就職に関しましても皆様のお力添えを重ねてお願いいたします。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、御援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

レバンテプロジェクトの報告

2006年9月5日～9日の5日間、学友会の共催の下、事故もなく無事走行することができましたので報告します。

この計画は中日本自動車短期大学創立40年およびイタリア国立フェラーリ工業専門学校との協定5周年の共同記念事業として行われました。目的は両校がそれぞれ製作

したソーラーカーで、イタリアのローマからマラネロまで約600kmを走行しながら、環境問題等の啓発と両国の親善を行おうというものです。以下、写真をもとに報告します。

この企画を共催していただいた学友会に心より厚く御礼申し上げます。



行動を走るため、実験車両専用のナンバーが付いています。



1日目の夜間走行が影響しエネルギーが不足。休憩中は少しでも多くエネルギーを回収。太陽光の入射角が90度になるように傾け中。



スタート地点での学生メンバーの集合写真。



ゴールではイタリア研修旅行にきた学生たちが迎えてくれました。



空を見上げるメンバー達。4日目は激しい雷雨のため途中で走行を断念。



イタリアの公道を走行するソーラーカー。



最後にフィオラノ・サーキットを走りました。



1日目のゴールは日が暮れた後でした。

ごあいさつ

中日本自動車短期大学

学長 櫻谷 興道



学友会の皆様、平素は本学の教育に多大なご支援を賜り、厚くお

礼申し上げます。

本学は平成十八年に創立40年を迎え、後援会各位のご協力を得て教育の充実に関わる記念事業を実施することができました。その中で、イタリア国立フェラーリ工業専門学校との交流提携五周年共同記念事業として『レバンテ計画』をたて、イタリアのローマからマラネロ市までをソラーカーで走行しました。レバンテ計画の実施にあたり、学友会の皆様には多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本学は「技術者たるまえに良き人間たれ」を建学の精神として、人間性豊かな自動車技術者を育成しています。平成十九年度から『自動車工学科』に学科名を変更し、教育改革に取り組んでいます。まず、教育の質保証として卒業率、国家資格取得率、就職決定率の向上を図り、学生の入学目標達成を支援します。次に、自動車技術の応用分野や国際社会で活躍できる人材

を育成するための教育内容の見直しを行います。最後に、教育環境の整備としてキャンパス施設を実習設備の更新、拡充を図るとともにICT(情報コミュニケーション技術)の充実を図り、教育の付加価値を高めるようにします。これらの教育改革により、学友会の皆様や社会の人々の期待に応えられる優秀な自動車技術者を育成していく所存であります。



更なるステップに向けて

中日本自動車短期大学

事務局長 野末



学友会の皆様には、日頃多大なるご支援をいただき、心より御礼

申し上げます。

私は、本年1月より事務局長に就任いたしました。前職では、自動車メーカー等の実業界にありましたが、こうした経験やパイプを学校界で活かすべく精進していく所存ですので、何卒よろしくお願ひいたします。

さて、本学は更なる飛躍を図るべく、本年4月より学科名称を自動車工学科から自動車工学科へ変更いたしました。この自動車工学科への新入学生は397名で、非常に厳しい状況となりましたが、同窓生推薦入学制度では53名もの入学をいただくことができ、学友会皆様のおかげであり深く感謝しております。来年度にかけても学生募集は大変な状況が続きますが、ぜひとも皆様のお力添えをお願いする次第です。

昨年度においては、おかげさまで40周年を迎えることができ、ご支援いただいたソラーカーでのイタリア縦断走行も無事終了いた

しました。

国際交流も留学生の増加、海外協定校やフェラーリ工業専門学校との研修生交流など益々活発化しております。また、本年度からの新たな取り組みとして、新入生合宿研修、人間力向上研修、支援する教職員研修等を行い、冷暖房設備などの教育施設の充実も従来に引き続き図っています。教職員一同、一丸となって学校力の向上に努めてまいり所存ですので、何卒、今後も暖かいご支援のほどよろしくお願ひいたします。

最後に、学友会の皆様の益々の活躍とご繁栄を祈念申し上げます。



OB近況



井倉正彦さん

こんにちは、僕は平成18年3月に自動車工学専攻を卒業して、今年の3月に一年越しでしたが一級自動車整備士に合格することができました。

一級自動車整備士を取るために日本で勉強してきたことを書きたいと思います。専攻科での実習は実車から部品を外して分解し、中の構造を調べたり、また実車に戻し試運転を試してみたり、手探りの実習でしたが、楽しかったです。また学科では最新技術やエンジンやシャシの電子制御、環境や安全など今までに習わなかったことや、それまでに知っていたことでもさらに深く知ることができました。口述試験の勉強として総合診断では同級生のプロフィールを聞き出すことから始めて、最終的には問診ができるように練習し、始めは恥ずかしくてなかなか会話が続きが難しかったですが、今では接客のときに役立っています。最後に、まだメトリットの少ない資格ですが、中日本でプラス2年間勉強してきたことは、今でも生きた知識として仕事にも活かされています。これから専攻科を卒業して一級を取得する後輩がどんどん増えてくれることを楽しみに待っています。

ごあいさつ



本年三月三十一日をもって、中日本自動車短期大学を退職し、四月から独立行政法人産業技術総合研究所水素材料先端科学センターの特別研究員として働いております。

井藤賀久 岳

私は本科学生(二十五期生)、専攻科生(専攻科一期生)の四年間の学生生活の後、教員として二年間実習や学料を担当していました。またこの間に多くの先生方の協力によって、岐阜大学及び大学院の学生として勉強することができ、「博士(工学)」の学位も取得することができました。

これらの経験の中で研究のおもしろさを実感し、高度な研究が行える産業技術総合研究所に転職しました。水素材料先端科学センターは、燃料電池、自動車など水素を利用する水素エネルギー社会の構築に向けた水素の安全利用技術を確立することを目的として平成十八年七月に九州大学伊都キャンパス(福岡県西区)内に設立されました。この研究センターは企業九州大学、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)などから

支援を受け産学官一体で研究が進められています。研究センターには五つの研究チームがあり、私はその中の「水素材料強度特性研究チーム」に所属しており、九州大学固体力学研究室と共同研究を行っております。研究内容は、水素タンクやポンプなどの構造部材に及ぼす水素の影響のメカニズムの解明です。水素は分子が小さく材料内に拡散侵入し、水素ぜい化を起します。材料によってその影響には差違があり、不適切な材料を使用した場合は安全が保証されません。そのため、強度低下のメカニズムを把握し、設計・製造における信頼性を確保することは急務となっております。具体的には、金属材料(ステンレス、合金鋼、アルミニウムなど)を用いて、十気圧、百気圧及び千気圧の水素ガス環境中で引張試験などの静的試験や疲労試験などを行い、強度の低下や破壊形態の遷移などから水素の影響の検討を行います。中日本自動車短期大学での十六年間で多くの先生や学生の方々とお会いすることができ、有益な経験をさせていただきました。この経験は私の人生の中で貴重なものとなると思います。ありがとうございました。新しい職場でも精一杯がんばります。

在学生より



自動車工学専攻科一年 野村裕也さん

この春、念願の一級整備士になるための養成課程を修めることができる、自動車工学専攻科に進学することができました。

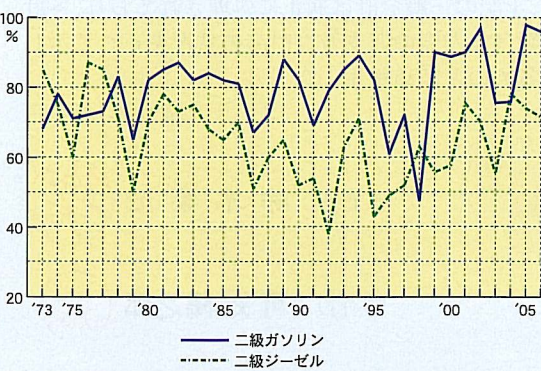
私が一級整備士になりたいと思出したのは、まだガソリンスタンドの店員として働いていた頃。自動車に対する正確な知識と確実な技術を身に付けるために整備士の資格を取得したいと、整備士の資格について調べだした頃からでした。始めはただ、どうせなら一番上の資格が良いと思って目指した一級整備士でしたが、お客様へのアドバイザーとして、電子制御システムのプロフェッショナルとしての能力を重視していることを知り、ますます一級自動車整備士への憧れを強めました。

この自動車工学専攻科で更なる知識と技術を身に付けて、将来的にはお客様にはもちろんのこと、職場の仲間たちにも信頼されるような、多くの知識と技術を身に付け、人としても心広く器の大きい人間になりたいと強く思います。そしてたくさん「ありがとう」を浴びて、いつまでも夢と目標を持って生きていけたら最高です。

登録試験の合格率

技術研修課

三月二十五日に実施された二級整備士登録試験の結果を報告します。今年度は第三十九期卒業生が受験しました。二級ガソリンの合格率は96.5%、二級ジーゼルの合格率は70.9%の結果となり、ガソリンに関しては開学以来、2年続けて90%を超える合格率となりました。今年度は前期から登録試験対策の演習授業を行い、また、登録試験直前の合宿を充実させ万全の体制で臨んだ結果、この合格率に結びついたことは喜ばしいことです。二級ジーゼルは依然として低い合格率に留まっていることから、より一層引き締めて100%の合



【認定試験合格率の推移】

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また、中日本自動車短期大学卒業生のご息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。

皆さんのご息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用ください。

くわしくは、同封資料をご覧ください。

編集スタッフより

学友会会報26号発刊にあたり、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

2005年度 収支計算書

2005年8月1日～2006年7月31日(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
収入の部				
基本財産運用収入	10,000	14,046	▲4,046	9,508
会費・入会金収入	10,700,000	9,530,000	1,170,000	10,960,000
雑収入	6,000	14,930	▲8,930	187,575
受取利息	3,000	100	2,900	640
雑収入	3,000	14,830	▲11,830	186,935
当期収入合計(A)	10,716,000	9,558,976	1,157,024	11,157,083
前期繰越収支差額(B)	8,377,538	8,377,538	0	23,267,547
収入合計(C)((A)+(B))	19,093,538	17,936,514	1,157,024	34,424,630
支出の部				
事業費	10,520,000	6,339,893	4,180,107	7,953,197
会報制作費	1,900,000	1,638,601	261,399	1,864,067
特別企画費	700,000	0	700,000	0
エコノパワー協賛金	10,000	7,087	2,913	8,980
記念品費	2,400,000	2,411,325	▲11,325	2,397,962
支部活動費	3,000,000	307,147	2,692,853	1,270,714
広報費	500,000	393,325	106,675	470,000
補助金	400,000	0	400,000	643,474
福利費	1,000,000	932,000	68,000	828,000
奨学金	500,000	500,000	0	500,000
名簿改定準備金	100,000	147,908	▲47,908	0
事業雑費	10,000	2,500	7,500	0
会議費	1,950,000	1,354,912	595,088	909,810
總會費	300,000	153,930	146,070	163,559
役員会費	250,000	333,622	▲83,622	105,861
役員会旅費	1,400,000	867,360	532,640	640,390
事務費	2,410,000	1,911,755	498,245	2,145,698
業務委託費	450,000	450,000	0	450,000
通信印刷費	1,800,000	1,362,215	437,785	1,525,636
事務用品費	10,000	9,345	655	12,990
事務機器リース料	50,000	51,450	▲1,450	123,480
事務雑費	100,000	38,745	61,255	33,592
雑支出	40,000	13,954	26,046	28,879
慶弔費	10,000	13,954	▲3,954	28,879
退職者慰労金	30,000	0	30,000	0
基金財産設定支出	0	0	0	15,000,000
学友会館建設基金	0	0	0	10,000,000
奨学金積立基金	0	0	0	5,000,000
運用収入正味財産繰入	10,000	14,046	▲4,046	9,508
特別補助	3,400,000	3,400,000	0	0
創設者銅像建造の協賛	1,400,000	1,400,000	0	0
ポッカ1000kmの補助	2,000,000	2,000,000	0	0
予備費	100,000	0	100,000	0
当期支出合計(D)	18,430,000	13,034,560	5,395,440	26,047,092
当期収支差額(E)((C)-(D))	▲7,714,000	▲3,475,584	▲4,238,416	▲14,890,009
次期繰越収支差額(E)+(B)	663,538	4,901,954	▲4,238,416	8,377,538

2005年度 貸借対照表

2006年7月31日現在(単位:円)

科 目	2005年度 (A)	2006年度 (B)	増減 (B)-(A)
資産の部			
流動資産	8,793,712	5,010,619	▲3,783,093
現金	10,1521	84,379	▲17,142
普通預金	2,002,048	933,732	▲1,068,316
郵便貯金	2,728,585	30,950	▲2,697,635
定期預金	3,961,558	3,961,558	0
固定資産	54,519,598	54,533,643	14,045
特定目的資産	54,519,597	54,533,643	14,046
学友会館建設定期預金	34,516,290	34,525,530	9,240
奨学金積立定期預金	20,003,307	20,008,113	4,806
有形固定資産	1	1	0
器具備品	1	1	0
資産の部合計	63,313,310	59,544,262	▲3,769,048
負債及び正味財産の部			
負債の部	416,174	108,665	▲307,509
流動負債	416,174	108,665	▲307,509
未払金	416,174	108,665	▲307,509
預り金	0	0	0
正味財産の部	62,897,136	59,435,597	▲3,461,538
(うち特定目的資産)	54,519,597	54,533,643	▲14,046
(うち正味財産増加額)	▲1,604,211	▲3,461,538	▲1,857,327
負債及び正味財産の部合計	63,313,310	59,544,262	▲3,769,048

監査報告書

私たちは、会則24条の規程に基づき、中日本自動車短期大学学友会の平成17年8月1日から平成18年7月31日までの2005年度における会務の執行並びに同事業年度一般会計について監査を実施しました。

監査の結果、会務の執行は法令及び規約に従い、総会並びに役員会の議決に基づき誠実に行われており、また、上記の一般会計は適正に処理されており、各計算書類は学友会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

平成18年10月1日

監査役 鈴木 泰成



監査役 可知 陽之郎



- 総会
 - 大学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 会報
 - 見やすく体裁を検討する。
 - インターネットへの移行を検討するためアンケート調査と移行したときの問題点の把握を行う。
- 学友会ホームページ
 - 内容を充実させる。
- 支部活動
 - 学生募集と会員の親睦をもてる積極的な支部活動を行う。
 - 岐阜県支部の設立。
 - キャンパスグッズ
 - 活用方法を検討する。
 - 学園・大学との懇談
 - 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 準会員との交流
 - 準会員への補助を行う。
- 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定。
- 退職者記念品
 - 定年退職者に記念品を贈る。
- 卒業年品
 - 学友会規約を配布する。
 - 3千円程度の記念品を贈る。
- 奨学金
 - 在学生に対して奨学金を支給する。
 - OBへの福利厚生
 - 長島温泉割引を行う。補助金の見直し。
 - 適切なものがあれば随時考える。
 - 大学への協力体制
 - 学生募集への協力をする。
 - 同窓生子女推薦を増やすために協力する。
- 広報活動でのソーラーカー貸出。
- 大学主催のエコノパワー大会に協賛する。
- その他
 - レバンテ計画に協力する。

2006年度
事業計画